

将来の夢と自分

金屋中・3 川村 菜月

二年生の秋。それは私の人生が大きく変わる瞬間でした。職場体験学習で病院に行き、高齢者の方々のコミュニケーションに言葉では言い表せないほどの充実感や喜びを覚えました。そこで、私は医療や介護の仕事に興味をもちました。そして、その夢はどんどん大きくなるばかりでした。

さて、中学生最後の夏。私は将来のために何か経験をしたいと思い、介護施設のボランティアに参加することにしました。すつきりとした青空の中、

「こんにちは。」

と職員に挨拶をし、やる気に満ちていました。どのような楽しい経験ができるのだろうか、どのような会話をしようかなど、期待に胸を膨らませていました。しかし、その期待はすぐに大きく裏切られました。

それは調理場で、利用者の方々が昼食を食べているときのことです。ある利用者の方に

「どうですか。おいしいですか。」

と聞いても返事はない。

「ご気分はいかがですか。」

と聞いてもまたまた返事はない。それを繰り返していくうちに、私は自信をなくしてきました。私がいても楽しくないのかな。そんなことを考えていくうちに、私はついに何も自分からできなくなり、重く硬い岩のようになっていました。もし夢が叶い、高齢者と関わる機会が増えたとき、私はトラブルを起こさずに意思疎通ができるのだろうか。利用者の方が嫌な思いをしないだろうか。私はこのこ

とについて不安になっていきました。

「思っていたのと違う。」

それが私の正直な気持ちでした。

一緒に活動した高校生も同じ悩みを抱いていました。

「無視されて悲しいよね。何をしたらいいのかもわからなくなっちゃう。」

と言っていました。その高校生も福祉に興味をもっていました。一心不乱に、一生懸命、どうしたらいいのか、何をしたらいいのかを協力して二人で考えました。ただ一つだけ私と違ったところがあります。それは、行動的だったことです。困っている人を見かけたら、反射的にかかけつけ、話しかけていました。私と同じようにわからないことが多い中で、常に周りを見て、必要だと思ったことにすぐ行動している姿は、私の憧れとなりました。高校生ながらに介護士の鏡のような人でした。

二人で考えているとき、声をかけてくれたのは介護士の方でした。「高齢者ってね、『うれしい』と思っていても、声や表情で返事することが難しくなってくるんだよ。だから、私たちは相手にとって何をしてほしいか、何を伝えたいかをしっかり考えることが大切なんだよ。」

そのとき、初めて私は自分勝手な人間ということに気づきました。相手に挨拶や自分の気持ちを押しつけ、表面上だけで決めつける。何たる傲慢な人でしょう。私は無意識に高齢者を侮辱していたのだと気づきました。

私は、このようなことから高齢者目線に対応することの重要性を再認識することができました。例えば、今回のように話しかけても相手にしてくれないという場合には、「聞こえていないのかな」と真摯に原因を考え、もっと大きな声で話してみるなどのように、解決策をいろいろと試してみることが一番よい方法だと思います。これを何度も試行錯誤することで、利用者の方と職員の間に大きな信頼

を得ていると思いました。

職員の方々を見ると、本当に尊敬するところが山ほどありました。テキパキ動いて仕事をし、相手の顔も見ただけで具合がよいか悪いかの判断をしていて圧倒されました。そこで、私は一つ考えさせられるようなものを見ました。それは、利用者のできることは時間がかかっても自分でやらせていたことです。はじめはとても不憫だと思いました。しかし、高齢者目線で考えると思い通りに身体が動かなくなってきたときに、できることでも相手に「できない」と勝手に決めつけられたら、嫌な気持ちになるだろうなと思いました。すべてをやってあげるよりも、ゆっくりとした動きでも優しく見守るほうが相手のためになるということを理解しました。私はハッと思いました。そのことは高齢者に限らず、私たちみんなに言えることだと思いました。私はよく友達と一緒に勉強をします。同じ問題に取り組んだとき、どちらかが答えをわかったとしても、決して声には出しません。答えを言ってしまったら相手のためにならないということを互いに知っているからです。相手が自分なりの答えを出すまで辛抱強く待っていてくれる友達と職員の方々とは、似たような思いやりがあると思いました。

ここで一つ大きな事件が起きました。利用者を見守っているときに、一人が急に近づいてきて話しかけられたのです。何を言っているのかわからず、同じような話を何度もしているので私たちは戸惑い、ただ黙ることしかできませんでした。このとき、高齢者目線で考えるということを思い出しました。話している方もきつと「聞いてほしい」という強い意志があると思いました。そのことを踏まえたとえで、注意深く相手の話を聞きました。すると、徐々に楽しそうに話してくれるようになりました。私は嬉しさと胸がいっぱいになりました。一緒に活動していた高校生とこの喜びを深く分かち合いました。

このボランティア活動で、私はさまざまなことを学びました。私

はまだ具体的な将来の夢は決めていません。医療や福祉の仕事に就きたいと考えていますが、このようにならないということもあると思います。でも一度は、

「思っていたのとは違う。」

と思ったからこそ、新しい視点で見る大切さや、その仕事の大切さを知ることができました。また、同じような夢をもった人と悩んだり、喜んだりした経験は、夢を追いかけるための活力になったと思っています。実際に働く人の活躍を見て、やりがいや楽しさを生で見ることができました。どんな仕事にも大変なことがあるのは当たり前ですが、その乗り切り方をこの活動で少し知ったような気がします。これからの長い人生を決めるのは自分です。じっくり考えていきながら、夢に向かって毎日受験勉強をがんばっていきたいです。